

-News Letter-

学会まで
46日

第4号発行

学会テーマ「医療ソーシャルワークの枠組みを再考する」

学会まで残り46日となりました。NewsLetter第4号を発行します。プログラムのご紹介と「私の学会の歩き方」のご紹介です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム紹介Vol.④

シンポジウム「入退院時の保証人問題～どう支えるか？」

(6月3日土曜 13:30～) (公社)日本医療社会福祉協会
坪田 まほ

“おひとりさま”の身元保証を行っていた事業者である公益財団法人「日本ライフ協会」の破綻ニュースがながれた頃、当協会へのマスコミからの「身元の保証のない患者」への医療機関の対応について取材依頼が増えていました。このテーマについては多くの医療ソーシャルワーカーが「入院時」や「転院相談時」「入院中の金銭管理」等にかかわり、問題意識をもっているであろうことから、また、会員ではありませんでしたが院内で金銭管理にかかわっていた医療ソーシャルワーカーが着服で起訴されたことがあり、今回社会活動部が会員の皆様への全国調査をふまえてのシンポジウムを企画いたしました。シンポジウムの目標は全国調査で明らかになった実態を踏まえ、身元保証に深くかかわる後見人制度の今として2018年に成立した「成年後見人制度促進法」について学んだ上で「身寄り上でのいない患者」や「家族の協力の得られない患者」が不利益を被らないための地域システムの必要性を共有することです。また、すでにそのような地域システムの構築に取り組んでいる地域の話や聞くことによってヒントが得られると考えます。

社会活動部では今回のテーマをこのシンポジウムで終わらすのではなく、社会提言に結び付けたいと第2回「赤い羽根福祉基金」に応募し3月30日に207件の応募の中の10件の助成対象事業に選んでいただきました。是非多くの方に足を運んでいただき意見を頂戴したいと思います。

シンポジウム「MSWによる交通事故被害者生活支援」

(6月3日 土曜 9:00～)



大久野病院 伊藤 正一

交通事故被害者生活支援と聞いて、皆さんはどんなイメージをお持ちでしょうか？「制度が複雑で大変」とか、「心理的な支援が難しい」などの声をよく耳にします。そのような声を受け当協会では、日本損害保険協会の助成により2015年度から第2期「交通事故被害者生活支援教育事業」を行なっています。

今回のシンポジウムでは、先に事業紹介として、当協会ですべて採用された『eラーニングを活用した「交通事故被害者生活支援教育オンライン講座」』の紹介を中心に、今年の10月に全国5ヶ所で開催を予定しているアドバンス(上級)研修や、長期かつ複数機関にわたる支援も少なくない交通事故被害者生活支援の円滑な連携を目的に作成した「交通事故被害者生活支援連携手帳」などを紹介します。

続けてシンポジウムでは、実際に交通事故被害者の支援を行なっている急性期・回復期のMSWからそれぞれの実情と課題を、そして当事者の方からMSWに望むことなどについてお話しいたします。支援に困難さを感じることもある交通事故被害者の生活支援ですが、この企画が、多くのMSWが不安なく支援を行なうことができるようになるためのきっかけになれば幸いです。ぜひご参加ください！

私の学会の歩き方②



KKR札幌医療センター(北海道札幌市) 木村 府佐子

全国学会はプログラムが盛り沢山であり、どう攻略するかにまず頭を悩ませます。今年のプログラムは興味のある内容ばかりでさらに私を悩ませます。そしてプログラムを見ながら、一人作戦会議を開くのです。今自分の課題となっている事柄、明日からの仕事への活力をもらえそうな演題などなど思いをはせながら選択していきます。そして遂に完成した自分専用のプログラム。あまりに過密となっており、分科会から分科会への移動も小走りとなってしまいます。今年は分科会の時間が分かれており、多くの演題発表を聞くことが出来て嬉しい限りです。食事をとる間も惜しいところですが、ここはしっかりと飯弁当を予約し栄養補給をします。そして何といても夜は交流会。もちろん参加ですが、全国のソーシャルワーカーと交流出来るチャンスです。全国各地より熱いソーシャルワーカーが集まっていますので、ソーシャルワークについて熱く語り合いたくさんのパワーをもらうことが出来ます。みなさん、ぜひ学会でお会いしましょう！



コムコの里みどりヶ丘(北海道帯広市) 小川 美紀

全国大会といえば、メニューが豊富で、興味津々な企画が盛りだくさん。でも、遠いし知っている人も少ないし…とつい敬遠されがちですが、今年は北海道・札幌開催！！これは行かない手はない！ということで、斯く言う私も、全国大会への参加は今回が3回目。まだまだ初心者ですが、豊富なメニューから、どのセッションに参加しようか、とあれこれ悩むのが第1の醍醐味です。そんな私が今回、注目しているセッションは、講演②「地域包括ケア研究会報告書における地域マネジメントをどう読み取るか」とワークショップ「ソーシャルワークにおける退院支援実践の自己評価」です。そして何といても分科会。全国のMSWの実践報告が聞けるまたとない機会です。自分の日頃の実践を振り返りつつ、明日からの実践の糧となる発表を求め、いくつもの会場を歩き来します。そして、夜は交流会で、全国に広がる多くの仲間との情報交換♪視野が広がります。



真栄病院(北海道札幌市) 橋本 恭尚

私のソーシャルワーカーとして個人的な興味・関心を基に少しだけ、全国大会のPRを兼ねて書かせて頂きます。様々なプログラムが組まれていますがその中でも私は確実に参加したいと思うプログラムは2つありました。1つ目は、6月3日(土)シンポジウム②「入退院時の保証人問題」です。このプログラムはもう他人事ではない問題として、身寄りがなく、意思決定も困難な方が適切な医療を受ける権利をどう守るかといったソーシャルワーカーに課せられている使命に直結します。2つ目は、事業報告②の「グローバル定義からナショナル定義の作成プロセス」です。世界基準を示したソーシャルワークの定義と日本ならではの文化や社会情勢を踏まえ、どう実践に落とし込んでいけるのかを考える事は、今後の実践の糧になる事を確信しています。後は、全国大会が何十年ぶりに北海道で開催されるという事でより身近に全国各地でのMSW実践を共有できたり、交流できる事は何よりも実践への刺激や活力になりますので、皆さん存分に楽しみましょう。